

平成24年度 (社) 日本地すべり学会東北支部 第28回総会・シンポジウム 議事録

開催日時：2012年4月23日 13:00～13:50 総会
14:00～17:00 シンポジウム
会場：東北学院大学土樋キャンパス 8号館押川記念ホール

I. 総会

- 1 開会 (千葉先生)
- 2 支部長挨拶 (代行：三上副支部長)
- 3 議事
 - ① 第一号議案 平成23年度事業報告
 - ② 第二号議案 平成23年度収支決算報告並びに会計監査報告
 - ③ 第三号議案 平成24年度事業計画 (案)
 - ④ 第四号議案 平成24年度収支予算 (案)
 - ⑤ 第五号議案 平成24・25年度役員改選
 - ・ 支部長：千葉先生
 - ・ 副支部長：伊藤和彦 (宮城県防災砂防課長)・濱崎英作
- ①～⑤の全ての議案が承認される。
- 4 報告事項
 - ① 国際会議
 - ・ 群馬県桐生市において、11/7～9に開催される。シンポジウムは「地震地すべり」がテーマであり、相当数の論文が提出される予定である
 - ② 本部の動き
 - ・ 総会およびシンポジウムは、5/11に東京都大田区区民会館で実施。
 - ・ 第51回研究発表会および現地検討会は、8/28～31に札幌市で実施。
 - ・ 公益法人化については、申請書提出済である。
- 5 その他
本日のシンポジウムは「CPD3単位」に認定されている。
- 6 閉会

II シンポジウム

- テーマ 1 宮城先生：海岸林域の津波被害と修復案の提案
テーマ 2 千葉先生：地震時の造成宅地の被害
テーマ 3 檜垣先生：斜面変動発生場の地形・地質地震動の特徴

意見討論会

- (1) 濱崎氏
 - ① 津波で抜けない森林を創る方策はないか？
 - ・ 森林の根は、水面より低く侵入しない。津波に強い森林にするには根を深くする必要があるため、盛土を行い、相対的に水面を低くする必要がある。
 - ② 噴砂は地震発生時の1時間後程度に発生している。そのメカニズムは？
 - ・ 現在のところ、よく解っていない。
- (2) 盛合先生
 - ① 降雨で発生する地すべりと、地震で発生する地すべりの違いは？

- ・ いわきでは地震により尾根地形がすべり、岩盤が層状構造を形成し、すべり面粘土がない。また地下水位もないため、このような場所は、雨では動かないと思われる。

(3) 宮城先生

- ① 団地の造成年代とすべりの関係で、これまでは古い造成地ほど強度が増し、安全とわかってきたが、千葉先生のデータでは、古い年代の造成地も多く滑っているのはなぜ？
 - ・ 当時の施工方法、特に排水施設が良くない。
 - ・ 盛土材も良くない。色々なものが埋められている。
 - ・ 盛土材が泥岩の場合、スレーキングによる風化により、盛土材自体が劣化している。
- ② 宮城県沖地震と東日本大震災では、地震動の違いも影響しているのではないかと？
 - ・ 確かに東日本大震災は、地震の継続時間が長かった。

(4) 古屋先生

- ① 意見として、古い宅造法、材料の問題、排水対策が良くない。宅地の材料の形状・地下水がどのように変わっていくか、解明することが今後の課題。
- ② 防潮林を作る場合、どのような樹種が良いか？ 今までの松は、松枯れの問題がある。
 - ・ 治山課長からの回答。レベル1では防潮堤による津波被害の防止、レベル2では道路や防潮林による被害防止を検討しているところである。樹種は松枯れに強い苗とし、広葉樹とする場合は、塩害の少ない内陸とする。

(5) 渡辺氏

- ① 意見として、防潮林の水面を下げる方策として、水路を引き潮で開放し、満潮で閉じることも一つである。

(6) 小林氏

- ① 今回の地震で落ちた斜面の背後には、多数のクラックがある。これを踏まえ、岩手・宮城内陸地震をトレースして、防災・減災の方策はないかと？
 - ・ 踏査で確認する必要があるが、クラックは住民からの聞き取りが必要である。住民に対しても、自分が自分を守るために、自分が住む地域の安全確認が不可欠と、アナウンスすることも重要である。

文責：菊地